

[別紙 2]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 前野 崇

本研究は、ヒトの注意機能障害の診断と評価の基礎的知見を得る目的で、注意に関する事象関連電位 P300 および P2、事象関連磁場 P300m および P2m を計測しその解析を行ったものであり、以下の結果を得ている。

- 1、健康な被験者 7 人に対して注意関連電位 P300 と磁場 P300m を計測し、その電流源を推定した。視覚刺激による P300 と P300m の電流源は両側海馬（7 人中 6 人）に位置し、さらに帯状回（7 人中 5 人）にも認めた。帯状回の電流源は過去の同様の研究では求めるのが困難だった。
- 2、空間に向けた注意に関する機能局在について基礎的知見を得る目的で、健康な被験者 10 人に対して視覚刺激による注意関連電位 P2 を計測し、その電流源を推定した。後頭葉外側から中側頭回後部（18, 19, 37 野）にかけて、左半側視野に注意を向けたときに左後頭葉外側の活動が有意に減少し右後頭葉外側の活動が保たれた。右視野に注意を向けた場合は、左右ともに活動の変化に差がなかった。

以上、本論文は、健康なヒトの注意機能に関する機能局在について新しい知見を明らかにした。これらのことは高次脳機能障害の診断と評価に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。